

中国の民族衣装

経営学部 1 年 中西真弓

1. さまざまな民族衣装

中国には 55 の少数民族が暮らしています。いくつかの民族衣装を見てみましょう。

アチャン(阿昌)族



イ族



ウイグル(維吾尔)族



回族



カザフ(哈萨克)族



ジノー(基諾)族



ジンポー(景頗)族



タイ族



チベット(蔵)族



チワン(壮)族



トン族



ドアン(德昂)族



トウ (土)族

トキヤ(土家)族

ヌー (怒)族



ナシ(納西)族



ハニ(哈尼)族



プーラン(布朗)族



ペー(白)族



モンゴル(蒙古)族



ミャオ(苗)族



ラフ族



リス族



ヤオ(瑶)族



ワ族



チベット(蔵)族(四川省)



羌族



モソ人



参考サイト：

<http://members.at.infoseek.co.jp/ikokunotabito/minzokuishou/chinatop.htm>

2.現代中国人のファッション

中国人のイメージと言うと、ウーロン茶のCMのような雰囲気を想像する人もいるかもしれませんが、それはまったくの間違い。実は中国（の一部）には、極彩色や花柄、全身刺繍といった華美服であふれているのです。この現象は、今まで同じような服しか着られなかった文化大革命の反動、赤色を縁起のいい色として尊ぶこと、中国の人独自の色彩センスが原因、など、いくつかの説があるらしいです。

また、行楽地に「盛装」してでかける人も多いとか。登山にスーツと革靴、ワンピースにハイヒール、そして見事な編み込みヘア、などなど。たまの休日だから、思いっきりお洒落をして、記念写真をとるのです。

参考サイト：

<http://homepage2.nifty.com/vivid/gallery2/china/china.html>

3.日本の民族衣装

日本を象徴する民族衣装「きもの」そのルーツは日本古来の衣服、古墳時代の埴輪に象徴されるようなツーピース型から、やがて中国の文化が伝来し、唐の装いに影響を受けました。その後、中国模倣ではなく日本独自の文化《和様文化》が貴族を中心として誕生し、その女性たちは競って美しい染織品「十二単」を作り出しました。そして時代は武家社会へと移り変わり、装いもシンプルな形となり、現在の「きもの」の原形である「小袖」が中心となっていきます。やがて桃山時代から江戸時代にかけての南蛮貿易をきっかけに、織物や装飾技術が盛んに発達して「小袖」にも豪華な装飾が施されるようになり、庶民の間にも織物が普及します。江戸時代には現在の「きもの」の文様のお手本となる「慶長文様」と「寛文文様」が誕生し、文化の展開も貴族や武士からではなく、町人が風俗・流行などの文化を開花させる時代となります。そして元禄時代に民衆芸術が興り始めて友禅染・西陣織も町人の服飾として広まりました。江戸時代が終わり、明治維新の到来によって、和装から洋装へと次第に転じてきましたが、「きもの」は古来から形がほとんど変わることなく、いつの時代も「着る人・見る人」を魅了し続けています。

参考サイト：

<http://www.kimonoclub.co.jp/manabu/kimono.html>